

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 サメガレイ

学名 *Clidoderma asperrimum*

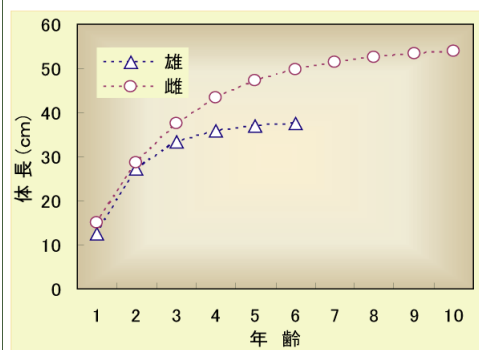
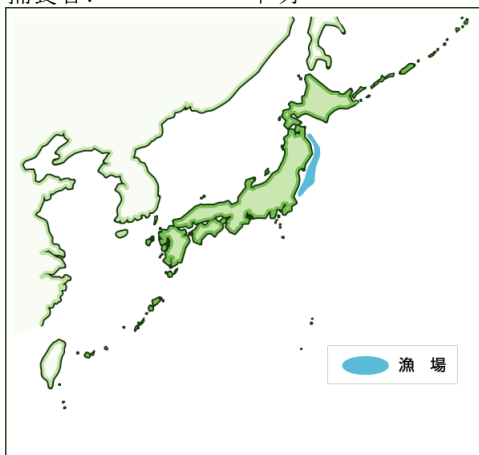
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄9歳、雌13歳
成熟開始年齢: 雄3歳、雌4歳
産卵期・産卵場: 1～2月、水深600～900mの深海域
索餌期・索餌場: 周年
食性: クモヒトデ類
捕食者: 不明

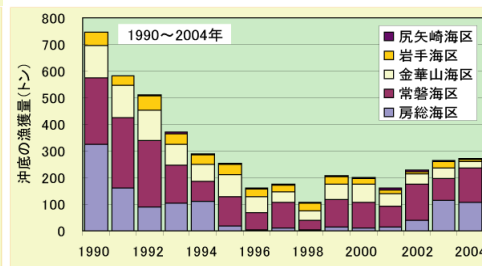
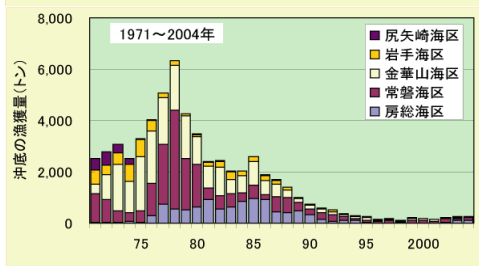
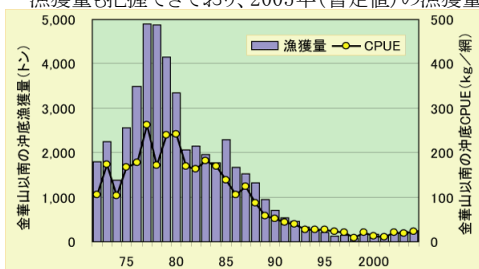


漁業の特徴

太平洋北部では、サメガレイは主に沖合底びき網漁業(沖底)により漁獲されており、他の漁業種類による漁獲量は極めて少ない。沖底の海区域別漁獲量をみると、金華山・常磐・房総海区(宮城～茨城県沖合)での漁獲量が大部分を占めている。また、サメガレイの漁獲は産卵期前後に集中しており、産卵親魚に対する漁獲圧が高いと推測されている。

漁獲の動向

沖底によるサメガレイの漁獲量は、1978年の6,329トンピークに減少を続け、1998年には最低水準の108トン記録した。その後、やや増加し、2004年の沖底による漁獲量は272トンとなっている。1997年以降は沖底以外の漁業種の漁獲量も把握できており、2005年(暫定値)の漁獲量は沖底で364トン、全漁業種類合計で397トンであった。

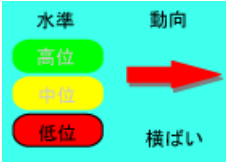
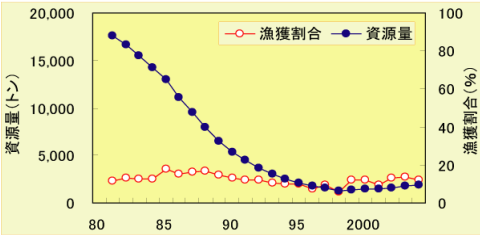


資源評価法

2002年度から資源評価対象種になったため、コホート解析のための年齢別漁獲尾数データは4年分しか得られていない。トロール調査による採集個体数は少なく、面積-密度法で資源量を推定することは不可能な状況にある。そのため、沖底の主要な漁場である金華山海区以南(金華山・常磐・房総海区)の漁獲量と有効努力量データを用い、プロダクションモデルにより資源評価を行った。

資源状態

現在の漁獲量は極めて少ない。CPUEの動向をみると、長期的には減少傾向にあり、現在の資源状態は低水準にあると考えられる。また、近年のCPUEはほぼ横ばいである。プロダクションモデルにより得られた金華山海区以南の資源量は、1981年の17,600トンから減少を続け、1998年には1,300トンと極めて低い水準となった。2003～2005年には1,900トン前後となり、近年はほぼ横ばいで推移している。以上のことから、サメガレイの資源水準は低位にあり、資源動向は横ばいと考えられる。

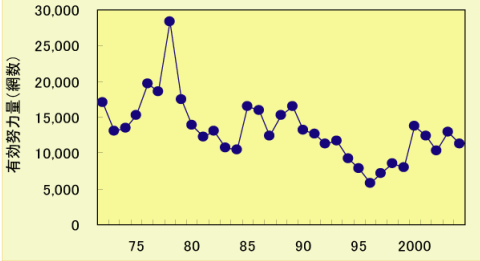


管理方策

プロダクションモデルを用いて資源量推定を行った結果、サメガレイ資源は低水準で、近年は横ばいと判断された。また、漁獲が産卵親魚に集中していることから、努力量を現状より低く設定し、産卵親魚量を増加させることが必要と考えられる。本報告では、産卵親魚量を確保することを資源管理目標とし、 F_{limit} として F_{msy} に B と B_{limit} の比率(B/B_{limit})を乗じたものを用いた時の漁獲量を ABC とした。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	190トン	$F_{msy} \cdot B/B_{limit}$	-	8%
ABCtarget	160トン	$0.8F_{msy} \cdot B/B_{limit}$	-	6%

- 漁獲割合は ABC ／資源重量
- ABC は10トン未満を四捨五入した値



資源評価のまとめ

- 資源は低水準にある
- 資源動向は横ばいにある
- 漁獲が産卵親魚に集中している

管理方策のまとめ

- 産卵親魚の確保が必要
- 産卵期前後の漁獲規制が必要
- サメガレイが産卵のために集群している場所での操業自粛が必要

資源評価は毎年更新されます。